

大山の地形

中国地方で最も高い大山は、鳥取、島根、岡山県すべての地域から仰ぐことができる。高さは 1,729 メートルあり、近隣沿岸からも印象的な姿が望める。120 立方キロメートルにもわたる大山は、立つ位置が違えば異なる姿を見せる。西から見ると、大山は円錐型の富士山にとても似ているが、北から見ると 2 キロメートルにわたる断崖が広がっている。

大山は約 100 万年前に始まった火山噴火の繰り返しにより徐々に形成された。現在のような姿になったのはふたつの大きな火山活動期による。最初の活動期は 60 万～ 40 万年前で、何度かの噴火で溶岩と火山灰が徐々に堆積して大山と船上山の地盤が形成された。40 万年前に始まった第 2 期には、山を覆い弥山（1709 m）と三鈷峰（1516 m）を形成する溶岩円頂丘ができた。現在休火山であるものの、過去大山には顕著な火山活動があった。約 5 万年前にあった噴火では火山灰が 450 キロメートル北東に位置する新潟県に届くほどに噴出された。

大山は主に安山岩と石英安山岩の 2 種類の火山岩からできており、その山肌は非常にもろく簡単に侵食される。1982 年には最高峰である剣ヶ峰の登山道の一部が崩れた。以来岩盤滑りの危険があるためこの登山道は通行止めとなっている。